

成果の説明書

(氏名) 石渡華奈	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 授業外での英語学習機会の提供</p> <p>「授業以外でも英語を学びたい・使いたい」という当時の学生の希望により、2010年度後期から研究室で週に一回 <b>Kana's Café</b> を開いている。参加、出席は義務ではないため、より自然で自発的な学習の場となっている。この <b>Café</b> はただ英語を喋るという場ではなく、英語学習相談を行ったり英語に関する質問に答えたり、また英語の化石化が起こらないように教材を決めて正確な英語で発話をするというトレーニングを行ったりしている。今年度から <b>LINE</b> の活用も始め、英語でチャットを行っている。さらに開設以来初めて学位記授与式後に「追い出しカフェ」を開き、1～3年生メンバーたちとともに、卒業するメンバーたちの門出を祝うことができた。</p> <p>また、授業でも研究室でも、大学構内で会ったときも、教員が英語を使っているときには日本語を使ってはいけないというルールにしている。メール連絡も原則としてすべて英語で行っている。年度の始まり、各学期の始まりにはほとんど英語で受け答えができなかった学生でも多くが、年度の終わりには自ら英語でコミュニケーションを取ろうという姿勢に変わっていることに、その効果が反映されている。</p> <p>(2) 英語スピーチのコーチング</p> <p>これまでも <b>ESS</b> の顧問として、特にスピーチセクションで単発的な指導を行ってきたが、今年度はスピーチセクションの希望メンバーに対して本格的なコーチング（指導）を行った。その結果、1名が計7つの全国大会に出場（うち2大会で3位入賞）という本学 <b>ESS</b> 史上最高といえる成績を、またもう1名が2つの全国大会出場という成績を修めた。</p> <p>(3) 英語カリキュラム改革</p> <p>昨年度からの継続課題である新カリキュラム策定に向けて、他大学でのカリキュラムや導入されている <b>e-learning</b> 教材などの情報収集および情報提供を積極的に行った。英語小部会は発展的に英語部会となり、また後期からは、英語カリキュラムの一元化に向けて経済学部と地域政策学部の英語教員が集まる合同英語部会も始まり、両学部合同で議論の場が確保されたことは現状認識や問題把握を進める上で大きな前進であった。年度末には、両学部統一の英語新カリキュラムの大枠を定めた答申をまとめることができた。</p> <p>個人としては、英語部会が実施した全学学生対象ニーズ分析調査および教員対象ニーズ分析調査の版下作成、印刷、配布等の準備、調査実施後のデータ分析、<b>FD</b> での発表を行い、個々の学生の英語力とニーズに応じたカリキュラムの分析・検討に向けた体制作りに貢献できた。また、入学時のクラス分けと <b>TOEIC</b> スコアの比較分析や <b>e-learning</b> 教材活用状況の把握と評価なども行い、新カリキュラム策定のための基礎データを提供することができた。</p>	
2 その他の事項	